



カブニくんと家族



カブトガニ博物館マスコットキャラクター  
カブニくん

がんばれ カブトガニ

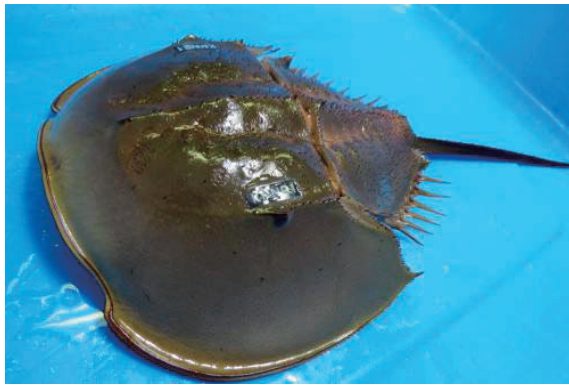
昭和<sup>しょうわ</sup>三十年代まで、笠岡の海にはたくさんのかぶトガニがすんでいました。そのころ、カブトガニは、あみをやぶる海のギャングとしてじやまものあつかいされていました。カブトガニをたすけようものなら、悪口<sup>わるくち</sup>を言われたり、わらわれたりしたのです。しだいに、カブトガニの数はへっていききました。

カブニくんは、笠岡市<sup>かさおか</sup>にあるカブトガニ博物館<sup>はくぶつかん</sup>のマスコットキャラクターです。カブトガニのまんじゅうや、せんべいなどのおみやげもでき、今では、「笠岡といえはカブトガニ」と言われるほどの人気もののかぶトガニ。そんなカブトガニが、笠岡の海から一ぴきもいなくなるかもしれないと心配<sup>ばい</sup>されたときがあったのです。



笠岡市立カブトガニ博物館





カブトガニ



カブトガニのたまご

さらに、昭和四十年代に入ると笠岡湾の干拓が行われ、カブトガニのすみかがうばわれ、見る見るうちにカブトガニの数はへっていったのです。このようすを知った笠岡市の中学校の先生や生徒たちは、「このままでは、カブトガニのすむ場所がなくなり、一ぴきもいなくなってしまう。なんとかしなくては…。」  
「ぼくたちが、カブトガニをたすけよう。」  
と、『ぼく少年団』をつくり、いっしょうけんめいにカブトガニをまもるうんどうをはじめました。

カブトガニは、あつい夏の星のきらめく真夜中にだけ、しずまりかえった海の沖合から、オスとメスでいきをひそめるようにすなはまへやってきました。そして、たまごをうみ、ぶじにうめたことを見とけると、つかれた体を引きずるようにして海へ帰っていくのです。たまごの大きさはすなつぶくらいで、しんじゅのようにうつくしく、そのかがやきは、地球のれきしをそっと教えてくれているようです。



活動する保護少年団

笠岡湾かさおかわんにしめきりていぼうができると、少年団だんの人

たちは、カブトガニのたまごや親を、近くの海へ引っこしさせました。たまごはつぶれやすいので、くぼみよりはなれたところから少しずつすなをくずし、たからものようにしんちょうにほっていきました。この一つぶに、二億おく年ものいのちがうけつがれているのかと思うと、おねがジーンとしてきます。

朝、くらいうちからはまべへ出かけて、魚のえさになるゴカイや貝をほりに来た人たちに、たまごをあらさないようにたのんで回りました。広いすなはまのことでですから、たいへんなしごとでした。一ぴきのカブトガニものこさないようにと、みんな体中どろんこになって、たまごや親をひっしでさがし回りました。

この少年団のかつどうに心をうたれ、カブトガニの大切さを知った人たちは、それぞれの地域いきでカブトガニをまもるかつどうをはじめました。そして、そのかつどうの輪わはどんどん大きくなって全国ぜんに広がりました。

その後、笠岡市には、「カブトガニほごセンター」ができ、平成二年には、「カブトガニ博物館」となりました。「カブトガニ博物館」では、たまごをかえらせたり、プールでカブトガニをそだてたりして笠岡の海にはなしています。また、下水道の整備をしたり、海水をきれいにする船を出したりして、海をきれいにするかつどうも行われました。さらに、海藻を海にそだてて、魚やカブトガニがすみやすい海にする努力も行われました。そのおかげで、笠岡の海で生きるカブトガニは年々ふえてきています。

少年団や多くの人々のねがいをうけつぎ、今では、カブトガニをまもるためのイベントがひらかれたり、カブトガニがすむ海のごみひろいをしたりするなどのかつどうが行われ、県外からも多くの人がさんかしています。

カブトガニが安心してすめるうつくしい海をのこそうと、かつどうの輪が、ますます広がってきているのです。

※干拓…あさい海やひがたをしきり、水をぬきとったり、ひ上がらせたりして、陸地にすること。

※教材中の写真は、笠岡市立カブトガニ博物館提供



## 1 主題名 自然や動植物を大切にしよう

## 2 主題設定の理由

## (1) 内容項目について

中心とする内容項目は、D 自然愛護「自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。」である。人間は自然の中で動物や植物とともに生きている。人間と動植物が共存していくことが自然の摂理である。しかし、最近では、自然の破壊がどんどん進み、その結果、動植物が減び、ひいてはそれが人類存続の危機につながりつつある。

自然の厳しさに耐え乗り越えながら生き続ける生き物の姿から、生きているものの美しさと尊さに気付かせていくことが大切である。そして、この自然の中で共に生きているものとして進んで手を差し伸べ、命あるものを育もうとする態度を育てていかなければならない。

## (2) 児童の実態について

児童は、美しい草花やかわいい小動物が大好きである。実際、草花を育てたり、虫や魚や小鳥などを飼ったりしているし、世話も熱心に行っている。しかし、その様子を見ると、忙しかったり、他に興味が移ったりすると、水をやるのを忘れて枯らしてしまったり、えさやりや水換えを忘れて死なせてしまったりすることもある。児童は小鳥がかわいいから餌をやり、花が好きだから水をやっているのである。自分の感情を中心にして生き物に接している児童に、生きているものの姿を認識させ、その尊さに気付かせたい。

## (3) 教材について

本教材は、笠岡市のカブトガニ保護少年団が中心となり、カブトガニを守った話である。干拓によって多くのカブトガニが住み処を失い、その数がどんどん減っていく様子から、笠岡の海からカブトガニがいなくなることを心配した地元の中学校の先生や生徒により、カブトガニ保護少年団が結成され、保護活動が始まった。その活動は、徐々に周りの人たちの理解を得て、カブトガニを守る運動の輪は広がっていった。カブトガニを守ろうとする人々のカブトガニに対する深い愛情と、環境保全の大切さに気付かせ、自分たちも進んで生き物を大切に育んでいこうとする態度を育てていきたい。

## ◇板書例

○ 自ぜんの生きものを まもるために自分 にできることを考 え、取り組んだこ と。	◇ 自ぜんの生きもの をまもるために自 分にできることを 考えて取り組ん でいこうとす る気もちが大 切。	・ がんばってよ かった。 ・ カブトガニに これからはま もりたい。 ・ これからもま もりたい。	ぜん国に広が ったとき	・ 二おく年もの ちがうけつが れたなん ・ ぼくたちの手 でかならずま もる。 ・ 一つぶきでも おおくたすけ たい。 ・ 一つぶきでも おおくたすけ たい。	引っこしをさ せたとき	・ ひどい、か わいそう。 ・ なんとかし てまもらな ければ。	数がへってい るのを知って	がんばれカブ トガニ	めあて 自ぜんの生き ものをまもる ために大切 な気もちを考 えよう。	カ ニ ブ 成 ト	卵	少保 年護 団
---	---	--	----------------	---	----------------	--	------------------	---------------	--	-----------------------	---	---------------

## ◇参考

土屋圭示著「どんがめの海」誠文堂新光社  
笠岡市公式ホームページ カブトガニ博物館

### 3 ねらい

自然の生き物を守るために大切な気持ちを考える中で、自然の生き物を守るために、自分にできることを考え、取り組もうとする気持ちの大切さに気付く、自分にできることを進んで取り組んでいこうとする心情を育てる。

### 4 展開

○は基本発問 ◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1 カブトガニについて話し合い、めあてをつかむ。	○ カブトガニを知っていますか。 ・二億年も変わらず生きているなんてすごい。 ・岡山県の笠岡市にいたんだな。すごい。 ・いなくなるのはかわいそう。	・写真を見せながらカブトガニの生態を知らせ、関心を高める。 ・カブトガニがいなくなってしまう危機を救った人たちがいたことを話題にし、めあてをもちやすくする。
自ぜんの生きものをまもるために大切な気持ちを考えよう。		
2 「がんばれカブトガニ」を読んで話し合う。	○ カブトガニが減っていることを知った中学生や先生はどんなことを思ったでしょう。 ・なんとかして守りたい。守らなければ。 ◎ 保護少年団の人たちはどんな気持ちでカブトガニを引越させましたのでしょうか。 ・この卵で二億年もの間カブトガニの命が受け継がれたなんてすごいな。 ・かけがえのない生き物だからぼくたちの手で必ず守りたい。 ・大切な命だから、一粒でも見逃さずに助けたい。 ○ カブトガニを守る活動が全国に広がり、数も増え、保護少年団の人たちはどう思っているでしょう。 ・がんばって活動してよかった。 ・これからも笠岡の海で生き続けてほしい。みんなで大切に守りたい。	・このままだとどうなるか問い、自分たちが守るという中学生や先生の気持ちに共感できるようにする。 ・砂浜の卵の写真を見せ、「どうしてそんなに苦労してまでカブトガニを守ろうとしたのか。」と問い、グループで話し合うことで、カブトガニがかけがえのない生き物であり、できる限りのことをして守りたいという気持ちに気付けるようにする。 ・活動の輪が広がり、喜びを感じている保護少年団の人の気持ちに共感するとともに、現在も人々に願いが受け継がれていることから、自分も自然の生き物を大切にしようとする心情を深めることができるようにする。
自ぜんの生きものをまもるために自分にできることを考えて取り組んでいこうとする気持ちが大切だな。		
3 自然の生き物とのかかわりについて振り返る。	○ 自然の生き物を守るために、自分にできることを考えたり、守る活動をしたことがありますか。 ・ホタルの里の話を聞いて川を汚さないようにしたいと思った。 ・ヤゴが住める環境を守るために自分も水を大切に使っているよ。	・身近な自然に関わった活動の写真等をもとに自然の生き物を守りたいなと思ったことを想起し、そのときしたことやしたいと思ったことについて振り返ることができるようにする。
4 教師の話を聞く。	○ 先生の話聞きましよう。 ・先生も自然を守る活動をしています。	・教師が体験を話すことにより、実践しようとする意欲を高める。
自分にできることを考えて自ぜんの生きものを大切にしたり、まもる活動に参加したりしていきたいな。		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の生き物を守るために自分にできることを考えて取り組もうとする気持ちの大切さに気付くことができたか。</li> <li>・自然の生き物を守ることにについて自分にできることを考えて進んで取り組んでいこうとする意欲を高めることができたか。</li> </ul>	

### 5 他教科等との関連

総合的な学習の時間や理科の時間等の学習の際、自然のすばらしさや、不思議さ、美しさ、かけがえのなさを感じ取ることができるような栽培活動、飼育活動等を行い、実感がもてるようにする。